

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800116		
法人名	医療法人社団阿叡の会		
事業所名	グループホーム杜の街 たけのこ棟		
所在地	千葉県山武郡大網白里町南飯塚404-11		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター 5階
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度化や終末期において訪問看護師や主治医との連携がスムーズであり、住み慣れた環境で過ごしていただいている。
開放的な環境で、ご家族やボランティアの訪問時もゆっくりとしていただける。また、畑や花壇は季節感にあふれ、利用者様はもちろん訪れる方の心の癒しとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「杜の街」は3ユニットが独立した形で立っているグループホームであり、それぞれのユニットには自由に行き来ができ、入居者同士の交流も盛んである。訪問看護師や医師との連携体制が構築されており、終末期ケアの経験も豊富で、入居者、家族の安心が伺えるホームである。敷地の畑ではボランティアの協力も得て色々な野菜作りを行っており、農作業は入居者の楽しみごとになっている。介護食士の資格を持つ職員が、収穫した野菜などを使って腕を奮って作った料理は味付け、彩り、盛り付けもよく、全員がおいしく食事を楽しんでいる。また、犬や猫を飼っており、入居者の癒しになっている。管理者と職員は地域との交流を深めようと、敷地内にある庭や四阿屋を開放し、地域住民が気軽に立ち寄れるホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念 : 1275800116					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室など常に目が届くところに理念を掲示したり、カンファレンス等を通し当GHの理念を共通理解する場を設け折々に話しあっている	ホーム独自の理念を玄関や職員トイレに掲示しているほか、職員採用時や月1回のカンファレンスでも周知している。理念は全職員で共有し、実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、周辺の散歩や買い物などで顔なじみの関係作りをしている	地域の敬老会に参加したり、系列施設と合同で行う夏祭りは、地域住民や家族と共に入居者も浴衣を着て参加している。近隣の小・中学校からは体験学習を受け入れている。また、地域のボランティアも多数受け入れており、当日も紙芝居を楽しんでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の小・中学校の体験学習の受け入れや役場の新任研修等で認知症の人の理解や支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な貴重な意見をいただき、反映させている	運営推進会議は役所の健康保険課の職員や家族代表などの参加で行われている。今年度は諸事情により2回のみ開催に終わったが、そこで出た意見を取り入れ、地域交流のきっかけになるようにと、ホーム内で定期的な催しを開いている。調査当日は、以前入居していた人の家族の協力で写真展を開催していた。	ホームは敷地内にある四阿屋を活用した近隣住民との触れ合いを考えている。それを契機に、より多方面からの参加がある運営推進会議が定期的開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時連絡を取り合い、不明な点など指導を頂いている	管理者は、町の新任職員にグループホームについて教えたりしている。また、運営推進会議で地域密着サービスの在り方について話し合い、連携体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日常のケアの場において話し合ったり、マニュアルを回覧して学習し、努力している	日中は玄関に施錠をせず、何時でも自由に入出りができる。外出願望の強い入居者もいるが、その時は職員が付き添っている。また、言葉による拘束があった場合は、管理者やユニットリーダーがその都度注意を促し、徹底するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや資料をもとに個々に学習したり、日々のケアの中で職員同士注意しあっている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等で学習をし、必要な方の支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分につくり説明を行っている。改定の際は、説明会を開き理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者が参加し意見を述べる機会をつくっている	職員は運営推進会議や家族交流会、面会時には出来る限り声かけをし、家族が何でも言えるよう心がけている。現在、ホーム内で開かれている写真展も家族の意見が反映された催しである。次回は絵本原画展を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやグループ内運営会議において意見交換を行っている	月に一度のカンファレンスは全職員の参加で行われている。職員間の関係も良好であり、意見を言いやすい雰囲気である。職員意見は出来る限り反映させるよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時に自己評価を行い、勤務態度や力量について、自己分析し反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修やその他経験に応じた研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームのイベントに参加したり、法人内の研修に参加している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用する本人と面談を行い、意見要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等と面談を行い、意見要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと情報を共有し現段階で必要なサービスを見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重したケアをこころがけ且つ自然な言葉遣いや態度で接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり、行事へ積極的に参加していただくなどらい所しやすい環境をつくっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの飲食店やスーパー、美容院など入居後も出かけられるように支援している	電話の取り次ぎやお盆、正月の外泊支援及び一時帰宅など家族との関係継続の支援を行っている。また、入居者の知人の来訪もあり、一緒にリビングでお茶を飲むこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介したり、食事の席を考慮して良い関係が築く事ができるよう支援している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶などできるだけ関係が継続していけるよう努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や随時本人の意向を伺ったり、家族等の意見もとりいれ本人本意の暮らしを支援する努力をしている	例えば好きな食べ物の話など、日常会話の中から希望や意向を把握するようにしている。表出が困難な人についても、場面ごとの表情の変化を見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族より生活歴を記入していただき把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録し現状を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回定例のカンファレンスを開催し、現状を確認している。その意見を反映した介護計画を作成している	職員同士は毎月のカンファレンスで意見交換をし、見直しの時期には家族の意見を聞いている。なかなか聞く機会のない家族については、介護計画を送って確認してもらったうえで、要望を記入してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の1日の様子や対応を記録して共通理解している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や個々の要望にできるだけ応えられるようサービスの多機能化に向けて情報を集めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや有料ボランティアの活用		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重して受診している。緊急時の希望も尊重している	家族の協力でかかりつけ医の受診を支援している。その際はホームでの様子を家族に知らせている。家族からも受診の結果を聞いている。また、訪問看護による月1回の健康チェックがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に変化がある場合は訪問看護師に報告、相談しアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を頻会に行い様子観察に努めている。また、法人医療機関との関係は常に良好を保っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りに関する指針をもとに家族等と話し合いを持ち、支援している	「その人らしい暮らし」を送れるようにサポートすることは看取り期においても同じです」とする指針がある。看取りの経験が豊富で、現在もターミナル期を迎えている入居者がおり、ホーム全体で支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による初期対応の訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を実施し、隣接施設との連携もとっている	夜間対応の訓練も含め、年3回の避難訓練を実施している。スプリンクラーもすでに設置されている。また、近くには系列の施設があり、協力体制もできている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した声かけ、決して命令口調にならないように心がけている	トイレ誘導なども、さりげなく近くで声掛けをするようにしている。また、職員が入居者を「ちゃん」付けて呼んだりすることがないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えやすい声かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し本人の過ごしたい生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に同行したり、白髪染めなど個々の好みを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に応じて一緒に準備をしたり食事を楽しんでいる	ホームの畑で収穫した水菜やラディッシュを使った彩りの良い食事は、介護食士の資格を持つ職員の手作りである。入居者も可能な人は下ごしらえなどで参加していた。食事の時間は和やかな雰囲気があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食のバランスを考えている。また、嚥下機能の落ちているかたには、飲み込みやすい形状にするなど個々の状態に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践し、必要があれば訪問歯科を利用し口腔内の清潔に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の力に応じた支援をしている	職員同士が連携し、時間を見計らって誘導し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食材を使ったり、十分な水分を摂って頂くよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の温度や、入浴の希望に応じている。清潔保持のため、声かけもまめにしている。	希望があれば、夜間の入浴にも対応するなど、一人ひとりの希望に沿えるように支援している。入浴拒否の人に対しても声かけの方法を工夫して、入ってもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて仮眠を取って頂いたり、空調や寝具の清潔等環境整備にも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を職員が理解し服薬支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や野菜の収穫、趣味の継続、外出など個々の生活の楽しみを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の状況によって外出や散歩をしている。墓参りなど介護タクシーを利用している	天気が良い日には、ほぼ毎日散歩に出ている。また、クリスマスには近隣の住宅街のイルミネーションを見に行ったり、花見に出かけたりもしている。お墓参りの希望にも管理者が付き添って対応している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己評価(たけのこ棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じた支援を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や友人など電話をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや花を活けている	3ユニットあるホームは、どのユニットもゆったりと明るく、ソファで寛ぐ人、テーブルで新聞を読む人、日向ぼっこをする人など、思い思いに過ごしている。る。雛人形やアートフラワーなどが季節を感じさせた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを利用して一人で過ごしたり、皆で過ごしたりと工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた物を持ってきていただいたり、家族の写真飾っている。また、本人の状態に応じたベッドの使用など個々の力に沿った支援をしている。	使い慣れた品や家族の写真を飾る等、それぞれが居心地よく過ごせるよう、支援している。中には可愛がっていたペットの犬と一緒に入居している人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や表示など安全かつ自立を重視している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所